



## 十勝ほ育育成牛受託協議会 10周年記念を迎えて

十勝ほ育育成協議会会長 福原 一 斉

この度10周年を迎えるにあたり、記念誌を発行し本会の足跡を後世に伝えることは誠に意義深いものであると存じます。

振り返りますと、平成15年ごろから十勝管内各地では酪農の規模拡大に伴い、大規模牧場では人員不足と自給飼料不足が顕著になってきたことを理由に、専門の外部委託支援組織の設立の機運が高まりました。ほ育育成牛においても、個人農家の施設や労働の不足はもとより、管理技術に不安を持っている方が多々いたことを理由に、ほ育育成センターが設立され、酪農家の労働軽減・安定的な生産体制の構築による所得確保、高度な管理技術による優秀な後継牛確保が目指されました。そのような中、本協議会は、十勝各地に散らばるほ育育成牛受託組織の連携を図り、生乳生産に寄与するための健康で持続性のある育成牛を提供することで十勝の酪農発展を目指すこと、ほ育育成牛受託組織の課題や問題点の共有化を図り、課題解決のための飼養技術の研鑽と情報交換を行うことを目的とし、平成26年に設立されました。関係機関はもとより30社を数える賛助会員の皆様のご協力のもと、多くの技術研修会や情報交換会、視察研修などを実施し、会員のほ育技術の高位平準化や更なる防疫体制の構築を目指すとともに、得られた知識情報技術は出来るだけ広く開示をすることで多くの酪農経営の一助となるよう活動を進めてまいった次第でございます。

しかしながら、昨今の酪農を取り巻く環境は急激に変化する国際情勢のなかで、生産者や関係支援組織においても予断を許さぬ厳しい状況となっており、更なる10年の安寧を図れるものとは思っておりません。

当協議会では、激動する時代の変化に対応しつつ、預託者である酪農家が更なる飛躍を果たせるよう、その礎となる育成牛の管理技術の更なる研鑽を図り、広く酪農経営に寄与していけるよう今後も努力していく所存です。

最後になりますが、本協議会の運営に多大なるご指導ご協力をいただいております十勝総合振興局、十勝農業協同組合連合会、NOSAI北海道の皆様並びに賛助会員の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう深くお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



## 設立10周年を迎えて

十勝ほ育育成牛協議会初代会長 桐山靖朗

この度十勝ほ育育成牛受託協議会が設立10周年を迎えるにあたり、日頃ご協力とご高配をいただいている各関係機関の方々に感謝と御礼を申し上げます。

十年一昔とは言いますが、まことに早いものでこの協議会を設立しようと奔走していたのが昨日の様に感じられます。設立のきっかけとなったのが製菓メーカーの飯田さんの呼びかけで同じ預託牧場が3社程集まった懇親会がきっかけとなりました。

その集まりの中で同業者同志と言う事もあり、同じ悩みや、困った時の解決方法等々話に花が咲きあつという間に時間が過ぎてしまった事が今でも思い出されます。

当時は丁度、酪農が規模拡大下にあり、酪農の作業の分業化が徐々に進みTMRセンター、コントラクターと共に各地で公共牧場とは違った哺育からの預託牧場が各町村で設立されその必要性が高まってきた時でもありました。

そんな時に思いついたのが同じ仕事をする者達がもっと広く悩みや思いを話し合え情報を共有出来る場があればと思ったのが設立のきっかけとなりました。

協議会設立にあたっては相談にのって頂いた当時東部普及センターの佐藤次長を始め多くの皆さんに賛同と協力を頂き設立することが出来ました。また振興局を始め多くの関係機関の皆様にご支援を頂き、現在の活動に至っている事に感謝申し上げます。

今では正会員数も倍となり、また賛助会員になられたメーカー各社も30社余りとなり様々な最新の情報を提供頂き本当に設立して良かったと思っていますところでは。

現在の社会情勢は設立当時とは大きく様相は異なり農業界も大変厳しい状況を呈し、労働環境も人手不足が進み現状の経営を維持するのも難しい状況となっております。

「新農業改正基本法」が制定されましたけど農業界全体が継続的に安心して経営を維持出来る政策を強く望む所です。

我々預託牧場も酪農家の大切な財産を預かり、酪農の基礎を担う仕事をして酪農発展の為に寄与しようと頑張っています。この事を継続的に維持する事が今後の酪農の発展のカギとなっております。

最後になりましたが協議会の益々の発展と共に今後も協議会がより大きな輪となり多くの仲間と情報を共有出来る事となります様に切に願い10周年の思いとさせていただきます。